

**「EOS R システム」の APS-C ハイエンドモデル “EOS R7” を発売
最高 8.0 段の手ブレ補正と高速連写・高性能 AF を実現**

キヤノンは、RF マウントを採用する「EOS R システム」の APS-C ハイエンドモデルカメラとして、新開発の有効画素数最大約 3250 万画素^{*1} APS-C サイズ CMOS センサー搭載のミラーレスカメラ “EOS R7” を 2022 年 6 月下旬に発売します。



EOS R7
*RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM 装着時

“EOS R7” は EOS R シリーズ初の APS-C サイズ CMOS センサーを搭載し、高速連写と高画質を両立したミラーレスカメラです。高い AF 性能と被写体検出機能により、高速、高性能を求めるハイアマチュアユーザーのニーズに応えます。

■ 動体撮影など幅広いシーンに対応する高速連写・高性能 AF

メカシャッター／電子先幕による撮影時は、EOS R シリーズ最速^{*2}となる AF/AE 追従で最高約 15 コマ/秒、電子シャッターによる撮影時は、AF/AE 追従で最高約 30 コマ/秒の高速連写^{*3}が可能です。さらに、「EOS R3」(2021年11月発売)の AF 被写体検出技術を継承し、人物、動物(犬・猫・鳥)、乗り物(モータースポーツにおける車・バイク)の動きが速いシーンにおいて快適な撮影が可能です^{*4}。

■ 約 3250 万画素の EOS R シリーズ初の APS-C サイズ CMOS センサー

新開発の有効画素数最大約 3250 万画素 APS-C サイズ CMOS センサーと、映像エンジン「DIGIC X」により、APS-C サイズ CMOS センサー搭載の EOS 史上最高解像性能^{*5}を実現しています。また、7K オーバーサンプリングによる高画質な 4K 動画撮影を実現し、「Canon Log 3」に対応するなど、画質にこだわる動画クリエイターのニーズに応えます。

■ 協調制御による最高 8.0 段^{*6}の手ブレ補正

ボディ内 5 軸手ブレ補正機構を搭載し、手ブレの発生しやすい環境でも快適な撮影を実現しています。さらに、レンズ内光学式手ブレ補正機構(レンズ内 IS)を搭載した RF レンズ^{*7}装着時は、カメラとレンズそれぞれの手ブレ補正機構が協調することで、最高 8.0 段の手ブレ補正が可能です。

製品名	希望小売価格	発売日
EOS R7	オープン価格	2022 年 6 月下旬

^{*1} 総画素数約 3440 万画素。使用するレンズまたは画像処理により、有効画素が減少することがあります。

^{*2} 2022 年 5 月 24 日時点。「EOS R10」(2022 年 7 月下旬発売予定)も同様。

^{*3} 動作条件は、2 ページ 1. の^{*1}に記載。

^{*4} 動作条件は、2 ページ 1. の^{*2}、^{*3}に記載。

^{*5} 2022 年 5 月 24 日時点。ISO12233 準拠の CIPA 解像度チャートでの評価。

^{*6} Yaw/Pitch 方向、CIPA 規格準拠。RF24-105mm F4 L IS USM (2018 年 10 月発売)、f=105mm 時。

^{*7} ボディ内 5 軸手ブレ補正機構の協調制御に対応した RF レンズ装着時。

<主な特長>

1. 動体撮影など幅広いシーンに対応する高速連写・高性能 AF

- ・メカシャッター／電子先幕による撮影時は、EOS R シリーズ最速となる AF/AE 追従で最高約 15 コマ/秒^{※1}の高速連写を実現。
- ・電子シャッターによる撮影時は、AF/AE 追従で最高約 30 コマ/秒^{※1}の高速連写を実現。
- ・「EOS R3」の AF 被写体検出技術を継承し、人物の瞳・顔・頭部・胴体、動物^{※2}（犬・猫・鳥）の瞳・顔・全身、乗り物^{※3}（モータースポーツにおける車・バイク）の全体・スポット検出に対応。ディープラーニング技術を活用したアルゴリズム「EOS iTR^{※4}AFX」により、優れた検出性能と被写体追尾性能を実現。
- ・電子シャッターによる RAW 画像の連続撮影機能「RAW バーストモード」（AF/AE 追従）を搭載。クロップなしで最高約 30 コマ/秒の連続撮影が可能。また、シャッターボタン半押し状態で撮影を開始し、シャッターボタン全押しの最大約 0.5 秒前から記録できる「プリ撮影」が可能。

※1 連続撮影速度の条件およびサーボ AF 時に最高連続撮影速度に対応するレンズについては、キヤノン公式 WEB サイト「cam.start.canon」上にある「EOS R7」の「詳細ガイド」もしくは「補足情報」をご参照ください。

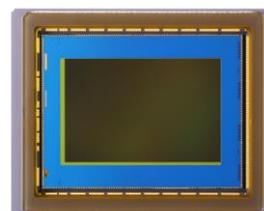
※2 被写体によっては動物検出できないことがあります。また、犬・猫・鳥ではない被写体に対して動物と検出する場合もあります。

※3 被写体によっては乗り物検出できない場合があります。また、車、バイクではない被写体に対して乗り物と検出する場合もあります。

※4 intelligent tracking and recognition

2. 約 3250 万画素の EOS R シリーズ初の APS-C サイズ CMOS センサー

- ・新開発の有効画素数最大約 3250 万画素 APS-C サイズ CMOS センサーと、映像エンジン「DIGIC X」の組み合わせにより、優れた高感度性能を達成。APS-C サイズ CMOS センサー搭載の EOS 史上最高解像性能を実現。
- ・静止画撮影時に常用で最高 ISO 32000 の高感度撮影を実現。高感度撮影時のノイズを低減し、暗い場所でも自由度の高い撮影表現が可能。
- ・レンズの収差などを補正し、解像感を向上する「デジタルレンズオプティマイザ」に対応。高速連続撮影時でも高い補正効果が得られる「強め」の設定が可能^{※1}。
- ・「HDR PQ」方式での静止画／動画記録に対応。また、高速でブラケット撮影を行い、カメラ内で 3 枚の写真を 1 枚に合成する「HDR モード^{※2}」を搭載。階調性豊かな映像表現が可能。
- ・自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行うフォーカスブラケット撮影において、EOS シリーズで初めて、カメラ内深度合成処理を実現。深度合成した画像をその場で確認が可能。
- ・EOS シリーズ初のパノラマ撮影機能を搭載。スイングしながら約 5 コマ/秒の間隔で連続撮影を行い、高画質なパノラマ画像として記録可能。
- ・スペシャルシーンモードの機能が向上。「流し撮り」「手持ち夜景」「HDR 逆光補正」などのモードで、カメラまかせでより本格的な撮影が可能。
- ・クロップなしの 7K オーバーサンプリングによる高画質 4K UHD Fine 動画が撮影可能。低感度から高感度まで、優れた解像感と色再現性を実現し、画質にこだわるクリエイターのニーズに対応。
- ・キヤノン独自の Log ガンマ「Canon Log 3」を搭載。従来の「Canon Log」よりもハイライトの階調が飛びにくく、明るいシーンでも豊かな階調表現が可能。



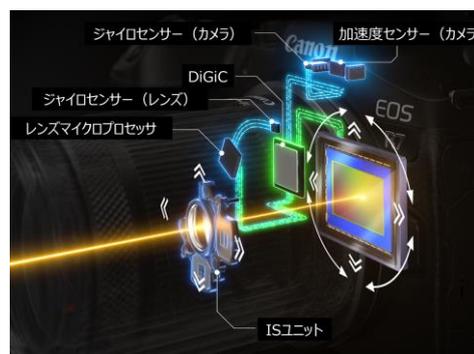
新開発の APS-C サイズ CMOS センサー

※1 連続撮影可能枚数が低下します。

※2 HDR モードでの撮影時は、「モノクロ」以外の「ピクチャースタイル」は「スタンダード」に自動設定されます（「モノクロ」設定時は白黒での HDR 撮影となります）。拡張 ISO 感度は設定できません。電子シャッター選択時はシャッタースピードが最高 1/8000 秒になります。

3. 協調制御^{※1}による最高 8.0 段の手ブレ補正

- ・ ボディー内 5 軸手ブレ補正機構を搭載し、手ブレの発生しやすい環境でも快適な撮影を実現。さらに、レンズ内 IS を搭載した RF レンズ装着時は、カメラとレンズそれぞれの手ブレ補正機構が協調することで、最高 8.0 段の手ブレ補正が可能。なお、キットレンズ「RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM」(2022 年 6 月下旬発売予定) 装着時の手ブレ補正効果段数は 7.0 段^{※2}。
- ・ ボディー内手ブレ補正機構のロール補正機能を利用し、CMOS センサーが動くことで撮影画面が水平になるよう自動補正^{※3}。カメラの水平出し時間を短縮し、撮影の効率が向上。
- ・ 動画撮影時には、ボディー内とレンズ内の手ブレ補正機構の協調制御に加え、動画電子 IS^{※4}の併用も可能。歩きながらの撮影など、多様化する動画撮影のニーズに対応。



協調制御による手ブレ補正のイメージ

- ※1 「RF400mm F2.8 L IS USM」(2021 年 7 月発売)、「RF600mm F4 L IS USM」(2021 年 7 月発売)、「RF600mm F11 IS STM」(2020 年 7 月発売)、「RF800mm F11 IS STM」(2020 年 7 月発売)、「RF800mm F5.6 L IS USM」(2022 年 5 月発売)、「RF1200mm F8 L IS USM」(2022 年 5 月発売)は非対応。なお、協調制御に対応したレンズでも、お買い求めの時期により、レンズのファームウェアの更新が必要です。
- ※2 Yaw/Pitch 方向、CIPA 規格準拠。f=150mm 時。
- ※3 次の条件では自動水平補正は使用できません。[シャッター方式: 電子先幕] 設定時、[シャッター方式: メカシャッター] で [ドライブ: 高速連続撮影+/高速連続撮影] 設定時、パノラマモード/流し撮りモード/キッズモード/スポーツモードに設定時、タイムラプス動画撮影時。
- ※4 動画電子 IS 使用時は、撮影範囲が狭くなります。

4. ハイアマチュアユーザーの快適な撮影を支える操作性と信頼性

- ・ ファインダーをのぞいたまま、設定から撮影が可能な新しいサブ電子ダイヤルを搭載。ハイアマチュアユーザーの使用頻度が高いマルチコントローラーと同軸にサブ電子ダイヤルを配置することで、ホールド時に自然に指が届くため、指を大きく動かすことなくさまざまな操作が可能。
- ・ 小型・軽量のボディーでありながら、UHS-II 対応の SD カードスロット^{※1}を 2 基搭載。
- ・ バリアングル液晶モニターにより、自分撮り時に構図確認を行いながらタッチ操作で AF や撮影開始などの操作が可能。さらに、動画縦位置情報を付加し、スマホなどで再生したときに動画が縦位置で再生されるように設定可能。
- ・ 動画連続撮影は、最大 6 時間^{※2}まで記録可能。
- ・ 約 236 万ドットの有機 EL パネルを採用した電子ビューファインダー (EVF) を搭載。また、HDR 技術を活用し、一眼レフカメラの光学ファインダーのように黒つぶれや白とびの少ない自然な見え方を再現する「OVF ビューアシスト」により、一眼レフカメラユーザーでも馴染みやすいファインダー表示を実現。
- ・ 「EOS 90D」(2019 年 9 月発売) と同等の防じん・防滴性能^{※3}を備えており、幅広い環境で使用が可能。

- ※1 Eye-Fi カード/マルチメディアカード (MMC) には非対応です。
- ※2 ハイフレームレート動画撮影時は最大 1 時間 30 分まで記録可能。カメラの温度上昇、電源、エラーなどの要因により自動停止することがあります。
- ※3 防じん・防滴性能を発揮させるため、カメラの端子カバー、バッテリー収納部ふた、カードスロットカバーなどの開閉部をしっかり閉じてください。また、マルチアクセサリシューには、シューカバーを取り付けてください。カメラは防じん・防滴に配慮した構造になっていますが、砂じんや水滴などの侵入を完全に防ぐことはできません。



新サブ電子ダイヤル



デュアルカードスロット

5. 快適な撮影をサポートする通信機能・拡張性

- ・スマホなどの携帯端末への Wi-Fi/Bluetooth®による接続が可能*¹。また、デジタル端子 (USB) による携帯端末との有線接続にも対応*²。
- ・カメラから「image.canon」への画像自動転送機能を搭載*³。「image.canon」では、クラウド RAW 現像 (有料) *⁴ や外部のウェブサービスへのデータ転送などが可能。さらに、「image.canon」の転送サービスを利用して YouTube に接続することで、カメラから映像をストリーミングでライブ配信することが可能*⁵。
- ・静止画撮影におけるストロボのコントロールおよび動画撮影時の音声のデジタル入力やスマホと接続してネットワークを活用できる「マルチアクセサリシュー」を搭載。
- ・新開発の「RF-S レンズ*⁶」に対応するとともに「RF レンズ*⁷」や、「マウントアダプター EF-EOS R」(2018 年 10 月発売) を装着することで「EF レンズ*⁸」も使用可能*⁹。

※1 Bluetooth Low Energy 技術に対応。以降の表記においては Bluetooth と記載。Bluetooth 機能の動作条件は、接続機器が iOS/Android™:Bluetooth 4.0 以上を搭載するデバイスです。ただし、上記の動作条件を満たす機器であっても、機種によっては、Bluetooth 接続ができないものがあります。Bluetooth 接続ができない場合でも、機器と Wi-Fi 接続による画像の転送、リモート操作は可能です。なお、Bluetooth 接続には、事前にカメラと携帯端末をペアリングしておく必要があります。カメラと携帯端末の Wi-Fi や Bluetooth での接続には、キヤノン専用アプリケーション「Camera Connect」のインストールが必要です。

※2 カメラと携帯端末の有線接続には、キヤノン専用アプリケーション「Camera Connect」のインストールが必要です。iPhone への有線転送には通信に対応したケーブルが別途必要です。有線接続時はスマートフォン操作での画像取り込みのみ対応。

※3 自動転送には、事前登録した Wi-Fi アクセスポイントに接続していることが必要。

※4 クラウド RAW 現像を行うには、あらかじめ Canon Imaging App Service Plans からプラン購入し、「image.canon」と連携する必要があります。本サービスは 2022 年 7 月下旬に開始されます。本サービスのご利用には 2022 年 7 月下旬公開予定のファームウェアの適用も必要です。RAW バーストモードで撮影した RAW 画像は現像できません。

※5 本製品のライブ配信サービスは、YouTube でのライブ配信にのみ対応しています。ライブ配信サービスを利用する際は、事前に「image.canon」の登録が必要になります。最新の要件については YouTube へご確認ください。YouTube でのライブ配信は、予告なく変更・停止・終了することがあります。YouTube でのライブ配信を含め、第三者が提供するサービスについて、キヤノンはいかなる責任も負いかねます。あらかじめご了承ください。

※6 「RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM」(2022 年 6 月下旬発売予定)、「RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM」(2022 年 6 月下旬発売予定)

※7 「RF5.2mm F2.8 L DUAL FISHEYE」(2021 年 12 月発売) は動作保証外。

※8 EF-M レンズを除く。EF シネマレンズは動作保証外。

※9 「マウントアダプター EF-EOS R 0.71x」(2020 年 11 月発売) は動作保証外。

<商品構成(キット内容)>

名称	内容
EOS R7・ボディ	EOS R7
EOS R7・ RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM レンズキット	EOS R7 RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM

<レンズ交換式デジタルカメラの市場動向>

2021 年の世界のカメラ市場におけるレンズ交換式カメラの販売台数は、約 540 万台となりました。2022 年は、約 565 万台を見込んでいます。(キヤノン調べ)

<主な製品仕様>

各モデルの製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。

- * Wi-Fi®, Wi-Fi Alliance®, WPA™, WPA2™および Wi-Fi Protected Setup™は Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。
- * Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- * IOS は、米国およびその他の国々における Cisco 社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- * YouTube、Android は Google LLC の商標です。
- * その他、記載されている会社名、製品・サービス名は一般に各社の商標または、登録商標です。